

令和3年度第1回県北広域振興圏地域運営委員会議 会議録

日時：令和3年6月29日（火）13:30～16:00

場所：久慈地区合同庁舎6階大会議室及び

二戸地区合同庁舎2階AB会議室

1 開会

【佐々木副局長】

それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和3年度第1回県北広域振興圏地域運営委員会議を始めさせていただきます。

私は、本日の進行を務めます振興局副局長兼経営企画部長の佐々木と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それでは初めに、県北広域振興局の高橋局長から御挨拶を申し上げます。

2 挨拶

【高橋局長】

県北広域振興局の高橋でございます。一言開催にあたりまして挨拶を申しあげさせていただきます。本日は御多用の中御出席いただきまして誠にありがとうございます。この地域運営委員会議は、県北地域の振興に関する施策を地域の皆さんと共同で進めていくため、将来計画や取組実績、来年度の政策方針を委員の皆さんと協議するというところで、年2回程度開催させていただいているものでございます。

今回は、コロナの関係もございまして初めての開催方法となりますけれども、会場を久慈、二戸の2か所に分けて開催することといたしましたので御了承をお願いします。

さて、県北管内におきましては先月、一戸町の御所野遺跡を含む北海道・北東北の縄文遺跡群について、イコモスから登録勧告が出されました。7月下旬に予定されている世界遺産委員会におきまして、正式に登録ということが強く期待されているところでございます。また、沿岸部のほうに目を向けると、三陸沿岸道路がついに開通して参りまして、一部遅れるという話もありましたけれども、今のところは年内の全線開通が見込まれているところでございます。

これらの動きを地域振興のチャンスと捉えまして、地域の資源に磨きをかけながら、活性化につながる取組を進めていくことが重要と考えています。

一方、新型コロナウイルス感染症は、管内でも感染された方が出たところでございますけれども、住民生活や経済活動などに深いダメージを与えております。県ではワクチン接種が円滑に進みますよう、市町村や関係団体等々一丸となって取り組んでおりますけれども、今

後も国、県、市町村の他、企業や地域、個人などのあらゆる主体が連携し、感染拡大防止と社会経済活動の両立に向けて取り組んで参りますので、皆様にも御協力をお願い致します。

本日は、今年度の県北地域広域振興局の主な取組について説明させていただきます。その後、昨年度行われた国勢調査の結果が速報されたところでございますが、県北地域の重要課題である、人口減少問題を中心として意見交換を行いたいと思います。県北地域の活性化につなげていけるように、限られた時間ではございますけれども委員の皆様にはそれぞれのお立場から忌憚のない御意見を頂戴できればと考えております。どうぞ皆様よろしくどうぞお願い致します。

【佐々木副局長】

ここで、本日御出席の委員、それから県の出席者について御紹介いたします。次第の2枚目、出席者名簿により御紹介いたしますので、大変恐縮ですが、お名前をお呼びいたしましたならば御起立いただきまして、その後御着席くださるようお願いいたします。

それでは、本日の出席者を御紹介致します。

〈出席者紹介〉

3 議事

【佐々木副局長】

議事に入る前に配付資料の確認をさせていただきます。

本日の配布資料は次第、出席者名簿、座席表、それから次第の下の箱に記載しております、資料5種類となります。足りない資料がありましたならば事務局までお知らせ願います。よろしいでしょうか。

それでは次第の3、意見交換に入らせていただきます。県北広域振興局地域運営委員設置要綱第5の規定により運営委員会議は局長が主催することと定められておりますので、以降の議事進行につきましては高橋局長が行います。

【高橋局長】

はい、それでは次第の3、意見交換とさせていただきます。本日は令和3年度の県北広域振興局における主な取組についてと、人口減少問題ということで意見交換をさせて頂きたいと考えております。進め方ですが、始めに事務局から二つの内容につきまして資料を一括して説明を申し上げます。その後、委員の皆様から順番におひとり3分程度で局の取組に対する御意見や人口減少問題に関する現状、行政に望むこと等々について御発言を頂きたいと考えておりますのでよろしくようお願い致します。また1時間ほど経過したタイミングで休憩をとる予定としております。それではまず、事務局から説明を致します。

【高橋企画推進課長】

〈資料 No. 1～5 についての説明〉

【高橋局長】

それでは地域振興プランの今年度の取組と、人口減少問題に関する資料の説明をさせていただきました。ただいま説明した内容につきまして、短い時間で大変恐縮ではございますが委員の皆様からそれぞれ立場から、おひとり3分程度で御発言いただきたいと思っておりますが、その前に今の説明について何か質問とかありますか。よろしいですか。発言の中でまたいろいろお聞きいただいても構いませんのでよろしくお願い致します。

それでは本日お配りした名簿の順に、今日はあいうえお順にさせていただいておりますので、この順に御発言を頂きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

それではまず、内野澤委員からお願いしたいと思っております。

【内野澤委員】

これまでの水産業の方では、担い手の確保や育成に向けて小中高生への体験学習や出前授業などを行ってきましたが、なかなか結果に結び付かない現状です。ですが、これからも新規就業者や担い手確保に向けて漁協さんや役場などと協力しながら、アイデアをいろいろ頂きながら、担い手確保に向けて努力していきたいと思っております。漁業資源の減少や温暖化などによる水温上昇、また漁業者の高齢化など課題はたくさんありますけれども、なんとか一人ずつでも新規就業者の確保に向けて努力していきたいと思っております。短いですが以上です。

【高橋局長】

ありがとうございます。漁業に関する人材確保と育成等についてのお話をいただきました。水産部長からコメントをお願いします。

【森山水産部長】

担い手確保、育成については県の水産施策の中でも大きな柱と考えております。県では、関係組織や市町村と連携しまして、平成31年4月にいわて水産アカデミーを開設しました。研修生の募集については、沿岸地区の高等学校を個別訪問したり、ホームページ等で情報発信したり、あとは首都圏の漁業就業フェアなどを通じまして県内外から募集をしているところです。

アカデミーでの研修内容については、漁業者から直接指導を受けるなど、現場に密着した

実習を中心としたものになっていて、これまで20名がアカデミーで学び、一線で活躍しているところです。

また、市町村ごとに担い手育成の育成協議会がございまして、就業支援金などについては、市町村が中心となって、地元定着に向けた支援をしているところです。

県北局としても、局の独自予算を使って児童、生徒に対して漁業体験を行っているほか、今年度は定置網の新規就業者の受入れ側の研修会というのも実施しながら、受け皿作りに向けた取組も行っています。

今後も、関係団体や組織等と連携しながら、担い手の確保と育成に取り組みたいと思いますので、どうぞ御協力をお願いします。

【高橋局長】

それでは次に、二戸の方になりますが九戸精密の及川委員からお願いします。

【及川委員】

昨年も九戸精密の事業などについてお話させていただきましたが、我々の主力としますと、いわゆる半導体の検査装置の部品になりますけども、今年度、顧客から生産キャパの2倍の要求が今来ている状態となっております。その中で、やはり人口減少による働き手の不足が一番の問題と捉えております。我々の企業努力としまして、入る人が少なくなってきましたので、辞める人をいかに少なくしていくかということで、定年後もそのまま継続雇用させてもらうということで、いわゆる生涯継続雇用の取組を行っております。ただ、ある程度限界もありまして、県北地域の人口減少が大きなりリスクとなっているところです。現状、県北地域だけでは成り立っていかないだろうと思ひまして、他県から人を呼んで、いかに移住してもらうかが今後の取組となっていくのかなと思っております。具体的に言いますと、今年4月あたりからハローワークさんの方に求人を出しておりますけれども、今までなかった神奈川県や埼玉県など首都圏のほうから「岩手で仕事を探したいんですけども、どうですか。」といったアンケートがぽつぽつ出てきています。そういった中で、令和3年度地域振興プランに基づく方策の方向性についてのカッコ4番のところにあります、大人のインターンシップというところをいま私も興味を持っていました。具体的な取組に関して、どういった対応になるのかお聞きしたいと思ひ、話させてもらいました。以上です。

【高橋局長】

はい、ありがとうございます。質問があった大人のインターンシップについて、産業振興室からお願いします。

【酒井産業振興室長】

大人のインターンシップ事業の元々の課題認識としては、ハローワークを通じて一般求人で就職された方の中でも、定着が思わしくないという、いわゆるミスマッチの状態が生じているというお話を聞いて、ミスマッチの解消ができないかと考えたところです。通常、高校生の場合ですと、九戸精密さんにもお世話になっている出前授業や、インターンシップのような形で、事前に会社の雰囲気や仕事の内容を知っていただける機会がありますが、一般求人の方にはなかなかそういう機会がないというのが現状です。当初の想定としては、ハローワークと連携して、求人申し込みをしていただいた方を対象に、就職に向けて企業と面談していただく前に、我々が間に入れていただいて、企業側と求職されている方との日程調整をした上で、3日から1週間という形で、インターンシップ、いわゆる就労体験を实际にさせていただき、その上で自分の興味だったり、仕事の内容が合いそうか、企業側であれば、しっかりうちの会社で勤めていただけそうかななどを確かめた上で、実際の雇用に結び付けるプロセスを作れないかということで、今年度新規事業で立ち上げたところでございます。

周知が途上ということもあり、実際のインターンシップに結びついた事例はまだありませんが、今後ハローワークとも調整して事業を進めていきたいと考えているところでございます。

【高橋局長】

それから、人口減少について二戸地域振興センターから何かコメントありますか。

【瀧澤地域振興センター所長】

人口減少ということで大きい課題ではあるのですが、管内でもコロナの影響でこちらにUターンして戻って来られている方もいるということで、そういった方々に対して市町村と情報共有しながら支援を考えていかなければならないと考えております。

【高橋局長】

経営企画部企画推進課からもお願いします。

【高橋企画推進課長】

移住定住の関係ですが、近年コロナの影響もございまして、首都圏で勤務しなければならない、あるいは首都圏で勤務したいという方の意識が変わってきている部分があるのかなと考えています。地方でテレワークを使って働くことができますし、こういった状況を踏まえて地方への移住定住を希望されている方もある程度いると聞いています。

このような中で昨年度もやっておりましたが、首都圏での移住定住のセミナーなど

を使いながら、本県の魅力や移住定住に関する情報などを発信していきたいと考えています。

【高橋局長】

はい、及川委員からほかに何かございますか。今の発言等についてでも結構ですがよろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、次に久慈市保健推進員の川代委員からお願いいたします。

【川代委員】

大人のインターンシップとか再生エネルギー、非常に興味深いお話でした。とても期待していきたいと思います。

私としては保健推進委員の立場から、気になったことがひとつあるのでお話ししたいと思います。昨今情報があふれまして、何が良いのか悪いのかよく分からない状況の中で、地域の皆様にもう少し寄り添ってお話を聞いて、その上で「こういうふうにしたら？」というような提案ができるような活動をこれからもっと必要になるのではないかなと考えております。防災に強いまちづくりのためにも地域に根差す活動、これがもしかしたら高齢化していく中で一番必要なことになると思います。なので、次の世代の方に興味を持っていただくことが難しい課題だなと感じております。それで今回も、世代を超えて若い方に発信するというカシオペアFMの話聞きまして、そういうことをもってこの地域で40代、50代、私は60代ですけど、70代、80代の方とラジオのような情報を経て交流できることがひとつあるのかなと感じました。

生活の満足度とモラルの向上はとてもリンクすると思うんですね。例えば、歩いていると不織布のマスク所々で落ちています。車を運転しているときはマスク拾えませんが、車から降りたときにマスクを拾えるような、そういう心のゆとりがあれば良いのかなと感じています。

子育て中のお母さん、お父さんたち、それから介護をする私たちの年代の心のケア、というか、風通しを良くするというか、そういう情報発信をもっとしていけたらなと感じております。以上です。

【高橋局長】

ありがとうございました。カシオペアFMのお話をいただきましたので、二戸の地域振興センターから説明をお願いします。

【瀧澤地域振興センター所長】

今年度はカシオペア連邦30周年ということで、これまで地域を作って来られた方、活躍さ

れた方、あるいはこれから担っていかれる方を掘り起こして、そういう人たちに対談していただいて、地域のこれから、あるいは頑張っていこうというところを番組として情報発信をしているところでございます。

4月から既に始まっておりまして、農業などいろんな分野の方々に対談形式でお話をさせていただく番組を提供させていただいております。

【高橋局長】

啓発的な情報発信という観点で、佐々木副局長からお願いします。

【佐々木副局長】

川代委員のお話の中にもありましたが、若い方そしてまた高齢者、世代を超えて連携する取組というのがこれから必要になってくるのではないかと思います。

私ども、特に久慈の管内を見たときに若い人たちに対する支援というのがちょっと不足しているのかなとも感じておりまして、今年度はそういった観点からもう少し振興局としての取組を進めて若い方々活動を後押しする、ひいては若い人たちが他の年代層の方と連携して、地域づくりに取り組んでいけるようなそういった環境を作っていくように取組を進めていきたいと考えております。

【高橋局長】

川代委員から他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、概ね一時間が経過致しましたので、ここで10分程休憩を取らせていただきたいと思います。14時40分に再開をしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

〈休憩〉

【高橋局長】

それでは、少し早いですけれども、再開をさせていただきたいと思っております。委員からの御意見を頂戴するということで、次は二戸の方になりますけれども、いつつ星会の中田委員からお願いいたします。

【中田委員】

意見とまでは行かず、今回頂いた資料の感想になってしまおうと思っておりますが、よろしく願いいたします。今回頂いた計画を見せていただいて、とても盛りだくさんで、これが実行できたら本当に凄いならうなということを感じました。

読ませていただく中で、資料 No.1 の 8 ページあたりを見ていて、カシオペア連邦建国 30 周年記念事業なんかは、30 年前自分も参加していた事業でございますのでとても嬉しく、「ああもう既に若者で参加した事業が 30 年経ったんだな」という実感を覚えながら見ておりました。若い人たちがこれからいろんな事業や行事に参加して、自分たちの住んでいる街を誇りに思えるようなイベントがこれからあるわけですから、多くの人に関わっていただけるように工夫していただきたいなと思います。どうしてもやっぱり一部の人間だけ、参加した人だけで終わってしまうというのが多々あるような気がしますので、一人でも多くの方が関わっていただいて、自分たちの住んでいる街を見直していただければなと思っております。

今回、一戸町の御所野の世界遺跡登録が目の前に迫っているわけで、すごく県北ってというのが再度注目され始めたのかなと思っております。点で見るといろんな魅力があるところとか、良いところはいっぱいあるんですけど、どうしてもいままで線が繋がってこなかった部分があるという気がしておりますので、是非こういう機会を有効に使っていただいて、それを線で繋いで、そして形あるような面にさせていただくことで、再度県北地方が光り輝くのではないかなと思っております。

私も今福祉の仕事に携わっているんですけども、福祉の方でも人材確保がとても難しい問題になっております。地元の福祉養成校でもある学生さんの卒業生が 4～5 人しかいないという状況で、それを各事業所の方で求人するというような状況が続いております。果たして、今年の新卒者も来てくれるのだろうかという心配を今からしております。

今まさに新卒者に向けていろいろな資料を作りながら、採用活動を始めたところでございますが、いろんな情報を集める度にとっても厳しいなと思っております。「勉強して帰って来ます」と言っていた若い人たちが実際帰ってこないケースも多く、どうしたら帰って来てくれるのだろうかというのを、今日職場を出るときに職員に聞いてみたら、一人の親として、「やはりこの地域には働く場もなければ学ぶ場もないので、どうしても子どもを出さざるを得ないし、子どもも帰って来たくても帰って来れないんだよね。」とお話しになっていました。子育てをしている年代に聞くと「もっともっと子供が増えればいいとは思うんだけど、産んで育てるとなるとなあ。」というような意見が聞かれております。

今何ができるかというのを皆さん悩んでらっしゃると思いますけれども、一つ一つ解決しながら職場にできること、地域でできること、行政でできること、それぞれあると思っておりますので、一つ一つクリアしながら自分たちの地域を守っていくお手伝いをできたらなと思っております。

【高橋局長】

ありがとうございます。まず、カシオペア 30 周年と若者の活躍というお話をいただきましたので、二戸地域振興センターの方からお願いいたします。

【瀧澤地域振興センター所長】

カシオペア連邦ができた当時活躍されていた、今地域のリーダーになられている方々の築かれたものが、現在低調になってきている部分もありまして、人口減少というのも背景にはあるんですけども。ただその一方で、これから地域の活性化のために貢献していこうという若い方も少なからずいらっしゃるので、そこを上手く繋いでいくということで、30周年記念事業を考えているところです。年末になるかと思いますが、関わっているみなさんの思いが伝わるような、あるいは地域のこれからは繋がるような機会になればいいなと考えています。

また、カシオペア FM についても、同様の趣旨で情報発信に取り組んでいるところでございます。

【高橋局長】

福祉人材確保のお話もいただきました。加藤所長からお願いします。

【加藤保健福祉環境センター所長】

県におきましては、2025年に介護職員の需給バランスが大幅に変化し、介護人材の不足が深刻化するという調査がなされています。そういった中で、介護人材の参入促進、労働環境の改善、専門性の向上などによって、介護人材の確保につなげることが必要になると思います。以前は3Kとよく言われていましたが、ライセンスをもって非常に誇り高い仕事をする現場でございますし、また収入という面においても、これから上がっていくということで、今後どんどん人を呼べる職場になるのかなと思いますので、そういったことを前面に出して、人材確保を頑張っていきたいと考えています。

【高橋局長】

色々な資源を線にして、面にして、というお話をいただきました。広域観光の観点から、産業振興室からお願いします。

【酒井産業振興室長】

中田委員がおっしゃっていたとおり、久慈地域も二戸地域も様々な観光地や魅力ある素材があると思っています。ただ、他の地域、例えば平泉と比較すると、決して知名度が高いと言える状況ではないと思います。その一方で、旅行するお客さんの形態が、大型バスで物見遊山的に見るものから、各地域で体験する、各地域にしかないものを味わう、などという個人型にシフトしている傾向が出てきています。そういったことを踏まえて、市町村や観光関

係の方と今一度、この地域の素材について掘り起こしを行い、この地域を線でつなぐことによって、広域的な周遊ができないかなということで勉強会を開催する予定です。

それとはまた別に、縄文の関係で二戸地域振興センターの方でも、八戸や鹿角地域と広域連携した形でのスタンプラリーも計画されていますし、二戸市、八戸市、久慈市が中心となって組織しているナニャトヤラ連邦会議に県北広域振興局もオブザーバーとして参加させていただく中で、コロナ禍で首都圏からお客さんを呼ぶのが難しい状況ではございますが、昔から南部のゆかりのある地域で周遊して賑わいを作っていけないかという事業にも取り組むこととしています。観光については、外向けに動きが取りづらい状況ではありますので、まずは近いところで皆様方が移動して楽しんでいける事業ができればと考えています。

【高橋局長】

中田委員ほかに御発言ありますか。よろしいでしょうか。

次に、みちのく大寿会の野田委員からお願いします。

【野田委員】

私たちは洋野町で高齢者施設をやっておりまして、今回、テーマの1つが人口減少問題ということで、意見等を述べさせていただきます。

私たちは介護の業界で、町村部にありますので、働く人を確保できない現実に8年前ぐらいから直面しております。その前までは、子育て支援の拡充等で好評を得ておりましたが、介護の業界で働きたいという方も少なくなってきて、それを受けて働き方改革を先取ってやりまして、岩手の働き方改革アワードで最優秀賞をいただいたり、先進的な取組をしてきました。それでも人材確保が難しくなってきた、その次は高齢者の活用ということで、高齢者の人が働きやすい職場づくりを行ってきて、今、厚生労働省の高齢者のコンテストで入賞をさせていただいています。やはり、人口減少に直面しているのは郡部の方が早いかなと思っております。そういう点で、今回の資料にもありますが、2020年の出生数が87万人で過去最低ということで、昨年に比べまして2.6万人減ったというのが調査で出ましたし、今年度は75万人、今から12万人減るんじゃないかっていう状況です。国の推計に比べて18年早く70万人台になるとというのが記事に出るようになってきました。今生まれた子たちが、高校卒業する18年後にこの問題がやはり顕在してくるかなと思っています。そういった点で私たちも、今回資料No.3の県北圏域に特化した資料を見ていて、特に5ページのあたりですね。今にも人口が減って、2045年には6.4万人台になると。これも計算すると次の6ページですが、高齢者も半分になりますので、今に比べると1万人ぐらい減る推計だと思います。

高齢者施設も徐々に淘汰される時代が来るかと思っております。その点で、数字が出ておりますので、私たちも何もせずにはられないので、国際化を進めております。今年度、ベ

トナムの方から来ていただいて、介護人材を確保していきたいと思っていますので、その国際化のところに要望なんです、やはり外国から来た方は孤立しがちですので、孤立しないような取組をしていただきたいと思います。業種ごとにやるのも1つですが、いろんな団体が横断的にできるような何か集まりの場を県北地域でもてると、他の地域との差別化にも繋がるのではないかと考えています。あと、外国の方が来た時に、病院にかかったときに、自分の身体の症状を伝えるのが難しいという現実もあるそうです。そういう点では、母国語でその方の言語で相談できる電話の窓口、又は直接通訳の方に繋がる何かホットラインのようなものを岩手県独自の取組で行うというのも、全国だけでなく外国から見ても、岩手に行きたいと思ってもらえる外国人の方が増えるのではないかなと思います。そういうところで、この人口減少の影響を少しでも少なくできるのかなと思っていますので、どのようにお考えかお聞かせいただければと思います。

【高橋局長】

ありがとうございます。人材について、保健福祉環境部長からお願いします。

【菊地保健福祉環境部長】

介護の人材確保関係の御意見・御質問をいただきました。先ほども二戸保健福祉環境センターの所長がおっしゃいましたが、3Kと呼ばれていた状況から収入も少し上がるような形で、頑張って取組を進めてきたのですが、やっぱりなかなか集まらないという状況については認識しております。外国人材を活用してそれを進めていくという新しい取組をなされるということで、心強く思っております。介護人材の確保については、国策といたしますか、国を挙げて介護の現場での外国人も含めての人材確保の取組を進めていくということも必要ですし、県として、あるいはこの圏域として、どのようなことができるのかということも考えながら進めていきたいと思っています。

【高橋局長】

国際化について副局長からお願いします。

【佐々木副局長】

地域の国際化についての御質問をいただきました。コロナ禍の前の対応についての話になりますが、技能実習生をはじめとして岩手県内でもかなり外国人労働者の方が増えているという状況がございました。それを踏まえて県では盛岡のアイーナにあります、岩手国際交流協会を中心として地域の国際化に取り組むということで動いていまして、市町村の方、あるいは地域の国際交流協会の方を交えた地域国際化推進会議を圏域ごとに開催して、いろいろ

取組を進めていたところでした。そんな中で、先ほども御指摘がありましたけれども例えば病院の受診、あるいは日々の生活の相談に乗れるようなそういった体制を整備していくことが重要ではないかということで、各地域で取り組む体制を作るということで動き始めていたところでした。しかしコロナ禍の影響で、例えば今年も本来であれば先月会議を久慈で開催する予定だったはずなんですけれども、集まったの会議は難しいということで書面開催になったと伺っています。ただ、いずれも課題認識はございますので、これからコロナの状況等を見ながら、そういった外国人の方が地域の中で生活し働いていけるような体制づくり、これは県としても国際交流協会と協力して取り組んでいきたいと考えております。

【高橋局長】

野田委員いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは次の方に移らせていただきます。久慈の方から普代村漁協の野場委員からお願いいたします。

【野場委員】

普代村の人口は5月末で2,540名なのですが、水産加工会社が普代漁協を含めて7社あります。漁獲量が減少する中、そしてコロナ禍の中、高齢化した女性部が団体として活躍する場というのはかなり難しい状況です。地域の伝統料理の紹介やアレンジ料理の紹介はできると思いますので、そういう場をみつけていけたらいいのかなと思います。

団体としてではなく、個人個人でできる活動というのが環境整備、ごみ拾いとかりサイクル活動とかあるんですが、リサイクルをコロナ禍でやらないと言う人もいますけれども、それぞれが感染予防対策をして声掛けをして継続していきたいと思います。

そのほかに、岩手県漁協女性部の大きな活動の柱として合成洗剤の追放運動というのがありますが、女性部員は少し高めの洗剤を漁協から仕入れて使っています。女性部員が毎日使う洗剤の量は微々たるものだと思うんですけど、この活動をどこかで紹介できて、進めていけたら環境汚染の防止につながるのではないかなと思います。

あと先日、岩手日報で紹介されていましたが、地域おこし協力隊2名ほど普代村で家庭を持ちましてお子さん2名産まれまして、人口が4人増えたという形なんですけど、こういうのが今後も続いていけたら嬉しいことかなと思います。

私はアパレル業に勤めているんですが、ベトナムからの実習生が5名いまして、生活指導員という役割をしています。普代村に遊ぶ場所がなく、久慈に出てくるにも交通機関が大変ということと、土日退屈だということなので、畑を借りて畑仕事をさせていますが、とっても楽しい、ベトナムと全然違うということでも喜んでます。その人たちの子供が10歳前後らしいので、これから何年か後にその人たちの子どもが日本の岩手が良いところだ

と知って、国際的に岩手に戻ってきたらいい現象だなと思います。

【高橋局長】

ありがとうございます。漁協女性部の活動について、森山部長さんからコメントありますか。

【森山水産部長】

各種イベントがコロナ禍で中止となっている状況で、浜料理や産物のPR、イベントへの出展がなかなかできないという状況にあって、苦しい状況とお察し申し上げます。コロナが終息して活動出来る事を願っておりますけども、漁協女性部の方々のそういった前向きな向上心をもって取り組んでいる姿は、地域の方々にとって大きな励みになると思います。また、リサイクル活動の関係も、女性部の方々が取り組むことによってこそ効果を発揮することにもなるのかなと考えます。継続して取り組むことが重要だと思いますので、今後も引き続きお願いしたいと思います。

【高橋局長】

それから地域おこし協力隊について、経営企画部からお願いします。

【高橋企画推進課長】

東日本大震災津波以降、県外の方が岩手県に興味をもって来ていただくとか、地域おこし協力隊ということで県内の市町村に実際に住まわれて、特に普代はかなり定着率が高いと聞いております。さきほどお話がありましたとおり、子どもが生まれるとか、そういった取組がますます進んでいくのは非常に良いことだと思います。県としても、地域おこし協力隊が活動しやすいように、あるいは定着が進むようにということで、地域おこし協力隊の方に専門家を派遣したりするという取組、あるいはその方々の事例等を発表する機会、そういった場を設けまして、地域おこし協力隊の定着、あるいは新たに協力隊になりたいというような方を増やしていきたいと考えております。こういった取組については、市町村と連携しながら進めていきたいと思っています。

【高橋局長】

技能実習生のお話もいただきました。これは先ほどの野田委員からのお話にも通じるような大変すばらしい事例だと思いました。そういったものも参考にしながらまた地域の国際化や労働力確保に取り組んでまいりたいと思います。

それでは、次に合同プロダクション未知カンパニーの藤織委員からお願いします。

【藤織委員】

いろいろ資料を見させていただいて、人口減少に関していろんな取組をしているということが、素晴らしいなと思いました。私は移住者でもあるので、そういった立場から言わせていただきますけれども、全国的に人口減少が進む中で、こういった活動が素晴らしいなとは思いますが、おそらく全国皆同じような取組を、努力してやられてると思うので、なかなか全国の中で岩手県が突出して、人口減少止められるような感じにはちょっと見えなかなと思いました。この活動もさることながら、例えば新しい取組だったりとか、全国にはない取組のようなことをしていかないと、厳しいのではないかなというのが正直なところだと思います。

私の中で3点、アイデアというか、意見を述べさせていただきます。

1つは仕事です。私がここに、久慈に住んで行こうと思ったのは観光のPRの仕事と、海女の仕事で、ここでしかできないことだったので、私がここにいる意味があるんだと思って残ったという経緯があるんですけど、やっぱり地域おこし協力隊の中でも、これからやっていける仕事見つけれられた人は残っていったんですけど、それが見つからなかった人は帰ってしまったっていうのがあると思います。例えば京都アニメーションですとか、岩手なんかかって付くような、この仕事に就きたいから岩手に行きたいという人を増やしていくべきではないかなと思います。いろんな仕事があると思うんですけども、岩手は他の地域と何が違うのか、突出する何か魅力がないと、なかなか岩手に住もうとはならないのかなと思います。

2つ目は、例えばマイノリティーの人たちですね、LGBT 級の人とのパートナーシップを県で認めちゃうとか、海外から来る人に対して、岩手県独自の手厚いサポートがあるとか、そういったことで、全国でも珍しい取組が何かあればもっと岩手は注目されるかなと思います。

3つ目は、久慈市は大学がないので長期的なことになるんですけども、三陸の沿岸道路がせつかく開通したので、例えば久慈市にいても八戸の大学や、専門学校に行けるというようなスクールバスなど、交通網を生かしたものができれば、久慈市にしながら、勉学にも励むことができ、就職というか定住に繋がるのではないかなと思います。どうしても1回出てしまうと厳しいかなと思うので、久慈市にしながら進学ができて、そして就職ができると、今後、潤っていくのではないかなと思います。

【高橋局長】

ありがとうございます。人口減少についておっしゃる通りで、日本全国、各都道府県、各市町村で計画を作っているのですが、ある意味取り合いみたいなのところもあるんですが、岩手県の考え方は、出生数は残念ながら人口が減ってきてる中でしばらくは増えません。でも、社会的な増減をなくしましょう。今は流出の方が多い状況なんですけど、それを止めましょ

う。そうすれば、少し人口減少は緩やかになるでしょう、ということを考えています。

そのためには、やはり仕事が重要ですし、例えば東京都の仕事だけど岩手からでもできるとか、2地域居住とか、オンラインワークとかも含めて、何とか社会増減をゼロにして維持していきましよう。そして、岩手県の県民計画の考え方は、そうした中でも一人一人が幸福を感じてもらえるようにしましよう。残念ながら人口減少は当分止まらないけれども、地域のコミュニティをしっかりと維持して、一人一人、幸せを感じるができるようにしていきましようという考え方で計画を作り、この地域振興プランもそういう考え方も作っておりますけれども、そういったことで取り組んでいるところでございます。そうした中で、例えばLGBTという部分についても、県民計画の中では、参画という政策分野を作ってまして、LGBT、女性、高齢者、障害者の方も含めて、皆で社会参画をしていただきながらやってみましようという方向性であります。

【藤織委員】

私の中では、岩手県が突出した何かがないと、全国的に目立たないのではないかなと思っ
て話をさせていただきました。ありがとうございました。

【高橋局長】

例えば、二戸の方だと漆っていうのはですね、やはり岩手ならではのとか、二戸ならではの
ところももちろんあると思いますので、そういったものもしっかり磨きをかけながら
やっていきたいと思ひます。

それでは次の方に移らせていただきます。二戸の方になります。一戸ユネスコ協会の古館
委員、よろしくお願ひします。

【古館（英）委員】

まずこの計画全体について、SDGsの考え方でこれまでの事業や目標が見直されている、あ
るいは、各市町村でもそういう動きで見直しがされてきてるということは、本当に私は嬉しい
ことだなど、ユネスコの立場としては嬉しいことだと思ひておひます。ユネスコは、世界
平和というのが最終的な目標ということになっています。今回の資料にも、誰1人取り残さ
ないというような文言がありますけれども、世界では紛争もあるし、なかなかこれは厳しいと
ころではあると思ひんですが、広範囲にわたって、この17の目標だけでなく、日本も具体的
にやられているわけです。日本でももう6、7年経っていますが、最近やっとこのSDGsとい
う言葉も、テレビや新聞などで毎日のように流れますので、耳慣れてきているかなと思ひま
す。県北管内でユネスコ協会があるのは、久慈市と二戸市と、浄法寺、一戸、この4つだけ
です。県内は22あります。全国でも一番多いはずですが、県南の方が結構盛んですけれど、盛り

上げていくという意味では、各市町村でもこういった組織を立ち上げてくれればいいという願いを持っています。

次は世界遺産登録についてお話します。局長さんからのお話にもありました。イコモスの登録勧告ということで、ほぼ登録されるだろうという見通しの中で、やはり二戸地域振興センターさんに本当にここ数年、いろいろ関わっていただきました。特に、コロナがなければ去年が勝負だったと思うのですが、そのような中で去年いろんな事業をやっていただいたと思います。FMいわての番組を御所野の方でやって、花火を打ち上げ、私もゲストの一人としてお話をしたのですが、そういったことも本当にお金が掛かるんですけど、大事なことだと思っております。また、今年度になってから、盛岡のマリオスと、横浜と、千葉市で縄文の原風景という展示会をやっております。これもかなりのお金が掛かるわけです。一戸町だけでは当然できない。そういった御支援、本当にありがたく思っております。

これからも、町だけではできない部分が多いので、情報発信機能のあり方については、参画してもらえるとというようなこと書いてありますけども、いろんな面で、サジェスチョンしてもらえればありがたいなと思います。

今日の岩手日報でも平泉が10周年という大きな特集がありました。平泉と橋野と、これから登録になるであろう御所野の3つは中世近世ですかね。このキーワードは多分平和っていうことなんだろうと思いますけれども、この3つを日本の中で持っているところは他にあったかなかったか。それぐらい珍しい。そういう意味では岩手県としてはこの3つをいかにリンクさせて、全国あるいは世界に向けて発信していくかということが課せられてるのかなと思います。4道県としてやることもあると思いますけども、この3つの世界遺産をどうアピールしていくかというのは、やはり岩手県に課せられていることなのではないかと思います。あとは、町としてやらなければならないことも当然あるわけで、それは地域振興センターさんからも御支援いただきながら取り組みたいと思います。

昨日送られてきた大人の休日倶楽部のパンフを見たら、8月4日、20日、30日と3回、平泉と橋野と御所野について、東京の神田で講座が開催されるようで、10月には現地を視察する旅行も企画されてるというのが書いてありました。JRですけども岩手県も協力していると最後に書いてありました。そういった意味では、いろんなところと連携していただいて、いろんな事業をやっていただくということは、とても大事なことじゃないかなと思っております。今後もよろしくお願いします。

あともう一つ、私が危惧してるのは、町民の方と話をして、まだ御所野に行ったことがないという方もいるわけです。本当に熱くなってる人と、そうじゃない人と差があるので、そこを何とかしなくてはならないと、私たちユネスコ協会も思っております。今年はそういったこともしたいとは思っていますが、そういったことが、岩手県内も全国も結局同じだろうと思います。盛岡でやった時も、やはり名前も知らなかったという方もかなりいました。是

非行ってみたいという声も聞かれました。そういった声を掘り起こして、いくらでもそれに答えていく。そういったことが大事だと思うので、今後ともよろしくお話ししたいと思います。以上です。

【高橋局長】

ありがとうございました。御所野の世界遺産登録に向けて、お話しいただきました。二戸の地域振興センターの方からコメントをお願いします。

【瀧澤地域振興センター所長】

御所野の世界遺産登録に向けて、いろいろ民間の方々の動きが出てきております。すみません、JRの話は存じ上げなかったのですが、私どもの方で観光バスの事業者さんと、平泉、橋野と交流して相互に連携を深めて、これからいろいろやっていくのに繋がっていけばいいということで、調整を進めているところです。やはり相互の交流ということでは、先ほど本局の産業振興室長からもありましたけれども、秋田と青森、八戸との連携ですね。御所野が南側の玄関口になるというところを活かしながら、少年団等もごさいますし、そういった交流、あるいは旅行商品の造成という部分をこれから詰めていきたいなと思います。八戸とのナニヤトヤラ連邦会議で既に連携する関係はできているのですが、今週末、鹿角の地域振興局が二戸にいらっしゃるってということで、これからは秋田のほうとも、今後に向けて、調整を図っていく予定になっています。以上です。

【高橋局長】

ユネスコ協会のお話もいただきましたし、岩手県内3つの世界遺産の連携のお話もいただきました。県本庁レベルだと文化スポーツ部というのがありまして、一体になってやっていく体制が出来ているので、しっかりそちらとも連携して、地域でも盛り上げていくようにしたいと思います。色々と御提案いただきありがとうございました。ほかに古舘委員の方からございますか。よろしいでしょうか。

それでは次に、引き続き二戸の方からですが、古舘製麺の古舘委員からよろしくお話しします。

【古舘（拓）委員】

資料を見て、身近なところとか、自分の簡単なところで気が付いたところをお話したいと思います。

カーリングなど生涯スポーツの定着や競技スポーツの魅力発信というところで、二戸はカーリングがかなり盛んですけれども、最近、軽米町では非常に小学生のバレーが強くて、今現

在、3大会連続県で優勝している状況です。そして去年軽米中学校卒業した生徒が、今年、東京の名門の下北沢成徳高校に進学しまして、先週の日曜日に、インターハイの決勝で優勝しまして、その子が一年生で1人だけスタメンで出場して活躍してました。なかなかバレーボールとか野球とかもそうですが、チーム競技は今少子化で、どこでも非常に存続が危ぶまれてる状況なので、こういった有望な競技選手に手厚い補助とか、何か協力していけるところがあれば、すごい助かるんじゃないかなと思います。

続きまして、地域で支える子育て支援ということで、ちょうど私も小学生と保育園の子供がいるんですが、周りの親御さんに聞いても、やっぱり軽米、二戸もそうなんですけども、子供を遊ばせる場所が非常に少ない。公園とかで、子どもが遊べる遊具を揃えてる場所が本当に少なく、久慈も少ないですけども、ほとんどない。あっても軽米だとミレットパークとかフォレストパークとか、なかなか車で行くのも時間がかかる山奥にあったりして、結局八戸だとか盛岡とか、そちらの方に行って、遊ばせるついでに買い物をしてしまうということになってるので、ぜひ地域に、子供を遊ばせる場所を整備していただきたいと思っています。

続きまして、人と動物が共生する社会の実現というところで、私の身近な話なんですけども、今の季節、あちこちで野良猫が子猫を産んで、いろいろ縄張りの取り合いだとか、子猫が道に飛び出して轢かれたりとかってということが頻繁に起きています。私のすぐ近所でも子猫が生まれて、今保護してるんですけども、何とか親猫を捕まえて、避妊手術だとか去勢手術をしないと、また同じような状況になってしまう。先日、二戸保健所の方に聞いて、猫の捕獲機を貸してくれないかと話したら、二戸では置いてないということで、動物病院に相談したら貸してくれるということで、今、何とか親猫を捕まえて、避妊手術受けさせようかなと思ってやりましたので、ほかの地域の保健所だと捕獲機を貸し出してるところもあるみたいなので、そういうのを整備していただければ助かると思っています。

続きまして、昨年度の委員会の際にもお話したのですが、再生可能エネルギーの促進についてです。軽米あたりは、メガソーラーをやってるんですけども、やっぱり自然環境と再生エネルギーの両立をもう少し考えていただければと思います。今年稼働を始めた、軽米と二戸の境にある風力発電の施設もそうですが、結構な面積の山を削って、何できるのかなと思ったら、風力発電が一基できただけ。で、横浜に送電する。実際に送電してるわけではないと思うんですけど、横浜に電力供給する話で。あれだけの面積の木を切って、山を削って、風車1台作って、これが果たして再生エネルギーの活用っていうことで合致してるのかどうか。その辺の、綿密な計算とかそういうのがどうなってるのか、成り立っているのか。国とか県とかの補助金とかそういうのも動いてると思うんですけども。それが本当に未来にとって良いのかというのも、考えていただきたいです。

続きまして、私の業務の関係ですが、食産業の振興についてです。いろいろ補助事業をい

ただいて、特にさんりく基金とか毎回お世話になっていて大変助かってます。去年は、振興局独自に物産展とか、商談会の出展経費の補助をいただいて助かってるんですけども、1点さんりく基金に関して、少し使いづらいなと思ってるところがあります。補助事業に対しての出展活動経費が、上限が定められてまして、全体の5分の1かつ10万円だったかと思うので、どうしても県北地域だと外に売って出なければ、なかなか販路開拓が難しいという状況があって、旅費に非常にコストがかかってしまうなど。コロナで去年は行けなかったんですけども、盛岡広域振興局の方で、台湾での物産展も毎年やっていただいてまして、2年前に参加したんですけども、非常に台湾での評判も良くて、台湾で買っていただいたお客さんが軽米まで来たっていう方もいらっしゃいました。さすがに海外にそうやって全部ってなると、自己経費では非常に厳しいので、やっぱその辺も旅費の方で、上手く使える補助事業を継続していただければと思います。私からは以上です。

【高橋局長】

多岐に渡る御指摘、御提案等いただきました。ありがとうございます。

子育て支援としての子どもの遊ぶ場所ですとか、人と動物の共生する社会、再生可能エネルギーと自然環境の両立ということで、加藤所長から何かコメントありますか。

【加藤保健福祉環境センター所長】

子どもの遊び場という点につきましては、御意見、その通りだと思います。子どもが遊ぶところがなくて結局外に行ってしまうって、お金を落とすというようなこともあるのかなと思います。子育てという面で、そういった視点というのはちょっと私どもの方でもあまり取り入れてないんですけども、子育てにやさしい企業とか、いわて子育ての応援の店とかって子育てしやすい環境っていうようなもので、施策を展開してるんですけども、今御指摘いただいた遊び場という観点も取り入れられたらいいなと思います。

また、再生可能エネルギーの関係ですけれども、全くおっしゃる通り木を切って、例えば太陽光パネルを設置する。また木を切って、結局そこが荒地になってしまって汚水が出るっていうのが、県内のあちらこちらで見受けられるというところなんです。県の方では、環境アセスの範囲を広げたりというようなことをやってるわけですけれども、目的は再生可能エネルギーの普及とエネルギー問題ですので、地域に認められるような開発がされるように、私どもの方でも指導していきたいなと思っております。

【高橋局長】

食産業の補助金のお話がありましたけども、産業振興室から何かありますか。

【酒井産業振興室長】

さんりく基金や食産業の補助金のお話がありましたけども、通常商談会などがある場合には、メーリングリストで御案内しておりますが、その際の出展経費の支援というのは、難しい状況です。そうした中で、新しい事業に取り組む際のアドバイザーの派遣などを支援させていただいております。旅費の支援に関しましても、全体事業費の中で、用途の大半が旅費だと事業効果を判断しにくいということで、旅費に使える部分を制限せざるをえない状況にあります。この部分をすぐに改善するのは、難しいところがありますけれども、振興局の取組の中で御意見をどう反映できるか考えていきたいと思っております。

【高橋局長】

時間の都合上、すべてについてコメントはし兼ねましたけど、古舘委員いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは次の方、谷地林業の谷地委員からお願いします。

【谷地委員】

当社は林業の名前ですけども、山の方の仕事と建設業もやりましたのでそういった部分含めてお話をさせていただきたいと思っております。

会社的に今現在取り組んでるのは、社員の健康管理、これは当然ながらやはり人口減少というところで行くと、私は社員それぞれが健康に働いてもらって、休むことなく皆さんに来ていただければ計画的にものごとを作れるし、怪我や事故等がなければ、生産性も拡大していくというところで、当然ながらやっていかなきゃならない、ここ数年そういった部分も含めました。

ただ健康企業、そういった部分での取組を皆さんに発表して、認めてもらうために頑張らなきゃならないかどうかというのは別の話ですし、取組の仕方で分からないところもたくさんあるので、できればそういった部分で、職域団体みたいなどころでの勉強会をすとか、経営者に対するアドバイスをする機会を設けていただければいいのかなと思ったりします。

また、当社も障害者の方を雇用してますが、障害者の方々の働く場所をいかに上手く作っていくかですし、結構、働いてみるとこういう仕事もできるんだなと気づくこともある。これしかできないのかなと勝手に決め付けることになってですね、やっぱり、彼らが働いて自立していく、生活していくってところに重点を置きながらやっておりますけど、要は地域づくりとして支える部分もあればいいなと思っております。特に支援学校のいろいろサポートをさせてもらってますが、彼らも働く場所をもっと広げていただきたいなと思ってました。やはり、まだ小さい狭い世界をやってる部分が多いので、いろんな場所の農林水産業もなんですけども、例えば建設でもしかすると、事務系の方でも働くことがもっとできるのかなと思っております

ので、是非とも一つの仕事場で1人が来るんじゃなくて2つ3つの仕事場で1人を雇って、シェアするやり方もあると思うので機会があればやっていただきたいなと思ってます。

あとは当社に関わるのが林業ですけども、最近ウッドショックという言葉も出てきます。これ構造的な問題なのかなと思いますけども、この地域にとっては、少し製材所の数が足りないので、現状に追いついていくためにはなかなか難しいということで、木を育てて切って、また育てるという循環を繰り返していくような、こんな人材育成をしていかなきゃ駄目だと思います。引き続き、これは県の方からもたくさんの御支援、引き続き御協力いただきたいなというふうに思います。

あと、再生可能エネルギーについて、先ほども話が出てますけど、木を伐って植えるということとか、育てるといふところに行くと、人材がやっぱり大事ですから、これは木を伐るとか、それを伐採して育てるとか、植栽するとかっていう方だけじゃなく、バイオマスとか、太陽光、風力をやるというのと、いろいろ大きな構造物を、管理保守点検していく中、長期に関わってくる。この地域に足りないのは、メンテナンスをする人たちがいないと感じています。そういった人たちがどこから来ているかというのと、首都圏の方から来て、多大なるお金を持って、いなくなっちゃうわけです。地域に金が落ちて行かないわけなんですね。これを一つの事業規模でいくと数千万の金が落ちるものが、関東に逃げていく。これを止めるためにはやっぱりそういったボイラーですとか、電気関係、保守点検は構造関係ですね、指摘をするスペシャリストを作っていくって、この地域から逃げない、自分たちで生み出したお金を地域に落としていくという仕組みづくりをやっていかなきゃならない。働く場所はあるわけですので、それをうまく作り出して、働く人たちをここに連れてくるという、そんなところも、バイオマスだとか、太陽光、再生可能エネルギーの中では作れるのではないかなと思います。是非ともそういった発想で、県北地域だけじゃなくて、岩手県全体でも、高校生とかその後の専門高校、職業訓練校っていうところを改めて見直してもいいんじゃないかなと思います。

あとは木炭の方ですけども、私が事務局長を努めてる協議会の方で、昨年度に海外輸出をさせていただくにあたって、支援していただきました。数年前から海外に輸出できないかなと思っておりましたが、きっかけを昨年つくっていただきましたので、それが今も継続中でして、向こうの方々とオンラインを通じてやりとりをしてますし、行かなくても物が売れるんだなとよくわかります。どうやってその方々とつき合っていくか、紹介の仕方も新しい方法ができてきているので、今回はスイスでしたけども、次また航空でオセアニアとか、いろいろ協議をしているところです。今回のことで色々御支援いただいたものも含めて、力に変えてやっていける、そんな地域の一つとして見せていければいいなと思います。

【高橋局長】

ありがとうございました。健康経営ということとか障害者雇用ということで、菊地部長からコメントいかがでしょうか。

【菊地保健福祉環境部長】

健康経営については、働く人が心とか体を病まずに、末永くそこで働いていくということが、企業にとっても良いということで、社長がそういうことを理解して、宣言をして、従業員にも健康づくりに配慮した取組をしていただくということで、進んでおりますが、まだまだこれからといった状況でありまして、谷地林業さんのように率先して取り組んでいる企業をモデル的に表彰したり、あるいは宣言をしてもらって公表したりというようなところで、取組を進めているのですが、もう少し裾野を広げてやっていく必要があると思いますので、いただいた職域団体の勉強会とか、あるいは代表者、社長さんに対してこういったこともやっていく必要があるんだということを説明する機会とかですね、そういったところを設けながら取り組んでいきたいなと思います。

それから、障がい者の関係で貴重な御意見をいただきました。障がいについては様々な症状があって、就労の場での適性がなかなかわからない部分もあるのですが、こういうこともできるのかみたいところで、働く機会をどんどん増やしていったり、働いて賃金をいただき、この地域できちんと暮らしていけるようなことをやっていきたいと思って進めているところです。農福連携ですとか、様々な企業との連携も必要だと思いますので、障がい者の方も含め、雇用されてる方が明るく元気で働いていけるように、そういった取組を目指してこれからもやっていきたいと思います。貴重な御意見ありがとうございます。

【高橋局長】

林業の部分で、及川部長からコメントをお願いします。

【及川林務部長】

人材育成というお話いただきました。谷地林業さんも含めて、久慈地方に木の仕事協議会という立派な組織がございます。管内の製材所と木材業者等が連携して、人材確保に取り組んでいただいているところでございます。活動の成果も見えてきまして、新しい若い方々が就職していただけるという感じになってきてございます。今後はそれに加えて、定着して元気に働いていただくということが重要になってきますので、そのモチベーションですね、林業を支えてる、環境を支えてるというところで、うまく企業さんの方で教育していただければというところでございます。

あと、木炭につきましても、主体的に取り組んでいただいております。やはり地域の林業

分野での特産物でございますので、これをいかに高く売っていくかということが重要になってきますので、今後とも支援して参りたいと思います。よろしく願いいたします。

【高橋局長】

再生可能エネルギーの仕組みづくりについてのお話もいただきました。今年度の方向性の中で再生可能エネルギー資源を生かした地域づくりということで立てております。その中では導入の促進とか利活用の促進だけでなく、再エネを活かした地域づくりということで、具体的にどういうことができるかということ、市町村の皆さんと勉強会をしていきましょうと。そういう中で、いろんな取組でこう地域にしっかりお金が残る仕組みとういったことも考えていきたいと思っておりますので、御承知おきいただきたいと思います。

それでは大変お待たせいたしました。二戸の方の J A 新いわての山下委員お願いします。

【山下委員】

まず資料 No. 1 の 55 ページにあります、GAP についてお話させていただきたいと思えます。私たちレタス農家 4 名でやっております。レタスの団体認証取得ということで、GAP の中で、岩手県版 GAP、ジャパン GAP、アジア GAP、グローバル GAP という段階がありまして、最高水準のグローバル GAP を認証取得しました。今年で 3 年目に入ります。これを 1 つ取得したことによってどうなったかということ、やはりここにある SDGs の持続可能な活動の 1 コマになると思えますが、持続可能な農業ということで、企業さんの方で調達基準というものが、2030 年までにジャパン GAP 以上の認証を受けている農家、という基準がもう既に打ち出されて数年経っている段階です。例えばマクドナルドさんイオンさんなど、量販店とかファストフードの企業さんとか、ファミリーマートなど、コンビニ関係はほとんどです。セブンイレブンもそうですけど、そういったところは既に表明をしております。もともとイオンさんなどは、契約栽培して出荷しているおつき合いが永年ありますが、一昨年グローバル GAP を取得することによって、マクドナルドさんの方から調達のオファーがありました。少数からスタートしたんですが、昨年 1 年間出荷させていただいて、今年度は昨年の 4 倍の数量がオーダーとして入ってきております。そのような形で、やはりこのグローバル GAP というものを、認証、これは第三者が、私の作ったレタスを評価していただいて、このレタスは安全・安心という証明をしてもらえんというような仕組みだと思えますが、やはり、何の食べ物でもそうですが、うちの作った野菜は美味しいんだよと農家は言いたいわけです。ただ、やはりそれは美味しいのと、安全安心と、どういう作り方をしているのか、それがきちんと説明できるかどうか、やはりこれが原則原点だと思えます。グローバル GAP の場合は、200 項目を超える審査項目を毎年 1 回、本審査ということで申請をして、それをクリアしないと継続できないというルールになっておりますので、今年も秋に本審査があ

ります。そのような形で、第三者の方に認めてもらえる生産物です。これが、奥中山は東北では一番の産地ですけれども、全国で見るとかなり低いです。大産地の長野県とか群馬県とかありますが、長野さんでも、なかなかグローバルGAPを取得しているレタス農家、しかも団体認証ということでやってるところというのは、なかなか聞こえてきてない状況で、やはり、さほど大きくない産地が存在感を出していくという動きにはなったのかなと思います。これは非常にありがたく感じてます。

このグローバルGAPを取得するにあたって、プロジェクトチームというものを県の担当の方、全農さん、農協さん、アドバイザー、そういった形でチームを作っていただきました。私たち農家は畑のことはわかるけども、それを通訳といいますか、きちっと書類、様式200を超える項目できちっと説明できる書式を作っていただいたり、バックアップしていただきました。そして審査員にチェックされた時に、書類をすぐ出せる状態にアシストしていただきながら、私たちが現場でアナログ的なところでしか感じられない、経験と勘でやってた世界をきちっと言葉で説明していただけました。これがすごくありがたい。県の職員の方とか、全農さんとかに、農家ではやりきれない部分を、カバーしてもらったというのが非常に大きかったと思います。それによって自分たちも、書類なり仕事の仕方なり、いろんな機械とか小屋の中とか、そういったものが整理整頓できるようになって、非常にすっきりして、どこに問題点があるのかとか自分たちの生産活動が見えてきました。こういった形が持続可能な農業だと実感できている段階に入っています。

これが、次の世代の人たちに、このグローバルGAPなり、GAPの活動をやることによって、ゆとりのある農業活動ができるのかなというような見え方を私は思ってます。要はひと昔前だと、面積拡大、薄利多売で、どんどんつくれば売れるというような、数で勝負、面積で勝負といったような時代だったんですが、これからはやはり、大手の企業さんと契約栽培をして、それなりに単価も評価していただいて、GAPでは単価を求めるなという暗黙のルールとか、そういう世界ではないとは言いますが、やはりそれなりの対価で評価して、お互い持続できる再生産価格というものを、やはり買うお客様の方でも言ってきてます。そういうことによって、面積をどんどん規模拡大しなくても、少しスリムな面積にしたとしても、きちんと時間のゆとりがもてた生活ができると、やはり若い夫婦または子育てをしながらでも、先に見える農業活動っていうのができるのかなと思うので、今後もお力添えいただければと思います。

人口減少については、やはり岩手、特に私の住んでいる奥中山には、土地だけはいっぱいありますので、周りに新規就農で農業を始めた若者もいます。私も親と同居しているという経験上、やはり同居となると、親と子という、皆さん御存知だと思いますが、なかなか上手くいくようで上手くいかない。でも長男坊は、いつかは親の面倒見なきやいけないという意識がある中で、同じ建物の中では暮らせないけども、ちょっと離れた、例えば同じ部落で家

を建てる。結構ここ数年、新規就農して、家を建てた若者も何名かおります。やはりこれから若い人たちは、農業という少し敬遠されがちな業界ですが、暮らしぶりを考えると、新しいあまり大きくない家でも建てて、親とちょっと離れたところで暮らすというふうになるのかなと。そういう時に、新しく家を建てる時の支援策と、先ほども話が出てましたが岩手版の支援策ですね、岩手出身の人が戻ってきて建てるとか、ここに家を建てるなら支援しますよとか、特に長男坊だったら支援しますとかですね。先ほど局長さんがおっしゃったように、増えるのはなかなか望めないかもしれないんですけど、減りのスピードを緩めたりするのであれば、そこで生まれた人を戻すというか、そういう考え方の中で、何か特典とか特色というようなものを、支援策としていただければありがたいなと思います。

【高橋局長】

ありがとうございました。GAPのお話などいただきました。田口所長からコメントをお願いします。

【田口農林振興センター所長】

GAPの推進ということでお話いただきました。農産物の安全、安心の確保の観点から、県内農業者に広く推進しているところでございますが、二戸管内では3つのグループが取っています。このうち2つは、比較的取り組みやすい岩手県版GAPという取組でして、山下さんたちが取得したグローバルGAPは、まだ1つの団体しか、取得できていないという状況でございます。

お話ありましたように、GAP認証をとった業者は高い需要があるということから、認証の取得者増加に向けた取組を一生懸命やっていきたいと思っております。GAP推進チームでは、支援方法の検討を踏まえた指導を実施するとともに、その取得を希望する方々への支援、さらには認証をとった方々に対しても、更新なり、今後の取組の継続について一緒に頑張っていきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

【高橋局長】

それから新規就農の方が家を建てる時の支援など話がありましたが、県の政策企画部の方では、若者の住宅支援というのに取り組んでおりまして、まだ借上げの部分だと思っておりますが、そういうところを支援するというのもございます。今お話いただいた部分も含めて、引き続き検討してまいりたいと思っておりますので、引き続きよろしく申し上げます。

司会の不手際で、時間が過ぎてしまいお詫び申し上げます。一通り皆さんから御意見を頂戴しました。大変ありがとうございました。今後の施策の参考とさせていただきますので、今

後ともどうぞよろしくお願ひします。

4 その他

【佐々木副局長】

次第4、その他でございますが、委員の皆様から何か御発言ございますか。

5 閉会

【佐々木副局長】

それでは、以上をもちまして、本日の地域運営委員会議を終了します。本日はありがとうございました。

本日御出席いただきました皆様には、後日御礼の品をお送りさせていただきます。

長時間にわたり御協力いただきましてありがとうございました。